

沼津工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	デジタル通信	
科目基礎情報							
科目番号	2019-686			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境エネルギー工学コース			対象学年	専2		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	木下真二郎, 半田志郎, デービットアサノ共著, 「デジタル通信」[第2版], 共立出版						
担当教員	佐藤 憲史						
到達目標							
1. デジタル通信システムのモデルが理解でき, 信号処理について説明できる. 2. 各種変調方式や多元接続方式について説明できる. 3. デジタル通信方式について現代社会においてどのように応用されているか説明できる(C1-4)							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
1. デジタル通信システムのモデルが理解でき, 信号処理について説明できる.	□デジタル通信システムのモデルが十分に理解でき, 信号処理について, 例を挙げて詳細に説明できる.			□デジタル通信システムのモデルが理解でき, 信号処理について説明できる.		□デジタル通信システムのモデルが理解できず, 信号処理について説明できない.	
2. 各種変調方式や多元接続方式について説明できる.	□各種変調方式や多元接続方式について全て詳細に説明できる.			□各種変調方式や多元接続方式について説明できる.		□各種変調方式や多元接続方式について説明できない.	
3. デジタル通信方式について現代社会においてどのように応用されているか説明できる(C1-4)	□デジタル通信方式について現代社会においてどのように応用されているか理由を含めて詳細に説明できる.			□デジタル通信方式について現代社会においてどのように応用されているかほぼ説明できる.		□デジタル通信方式について現代社会においてどのように応用されているか説明できない.	
学科の到達目標項目との関係							
実践指針 (C1) 実践指針のレベル (C1-4) 【プログラム学習・教育目標】 C							
教育方法等							
概要	通信システムは, 産業や文化, 生活にとって不可欠な社会的インフラである. 通信技術は急速に進歩しており, 高度情報化社会をささえる基盤技術となっている. 通信システムは広範囲な技術を応用した総合的なシステムである. この科目は企業で高速通信の開発を担当していた教員が, その経験を活かし, 信号処理の基礎, 変調方式, 各種のデジタル通信等について講義形式で授業を行うものである.						
授業の進め方・方法	教科書に沿って講義する. 関係する資料を配布やし関連する部品などを回覧する. 100点満点の試験を実施し, それを評価点とする.						
注意点	授業目標3 (C1-4) が標準基準 (6割) 以上で, かつ科目全体で60点以上の場合に合格とする. 評価項目及び評価基準については評価 (ルーブリック) による.						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	授業概要と, 目標, 計画, 評価基準の説明		授業概要を理解できる.		
		2週	デジタル通信の基礎		アナログ通信とデジタル通信の違い, デジタル通信の利点を説明できる.		
		3週	通信で使う信号Ⅰ		正弦波の時間・周波数領域の表現を説明できる.		
		4週	通信で使う信号Ⅱ		方形パルスの時間・周波数領域の表現を説明できる.		
		5週	通信システムのモデル		通信システムのモデル, 雑音, 誤り率, SN比, 通信路容量について説明できる.		
		6週	アナログ信号のデジタル表現		標本化, パルス変調方式を説明できる.		
		7週	波形伝送理論		無ひずみ伝送, 符号間干渉, ナイキストの第1基準, コサインロールオフ特性, アイダイヤグラムを説明できる.		
		8週	ベースバンド伝送Ⅰ		ベースバンド伝送の基本, 伝送符号について説明できる.		
	4thQ	9週	ベースバンド伝送Ⅱ		伝送符号のスペクトル, 符号誤り率について説明できる.		
		10週	搬送波デジタル通信Ⅰ		デジタル変調の基本, 振幅変調について説明できる.		
		11週	搬送波デジタル通信Ⅱ		位相変調, 2相変調, 4相変調について説明できる.		
		12週	搬送波デジタル通信Ⅲ		n/4シフトQPSK, 多相PSK, DPSK, 周波数変調, 変調方式の性能比較について説明できる.		
		13週	搬送波デジタル通信Ⅳ		直交振幅変調について説明できる.		
		14週	多元接続方式Ⅰ		多元接続方式の概要, TDMA, FDMA, CDMAについて説明できる.		
		15週	多元接続方式Ⅱ		周波数ホッピング, OFDMについて説明できる.		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験				ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100

1. デジタル通信システムのモデルが理解でき、信号処理について説明できる.	40	0	0	0	0	0	40
2. 各種変調方式や多元接続方式について説明できる.	40	0	0	0	0	0	40
3. デジタル通信方式について現代社会においてどのように応用されているか説明できる(C1-4)	20	0	0	0	0	0	20